

氏 名	安 井 豊 子			
学 位 の 種 類	博士（保健学）			
学 位 記 番 号	甲第19号			
学位授与の日付	平成27年 3 月11日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
学 位 論 文 題 目	<p>Components for working toward seamless medical social work for patients with cerebrovascular accident: Scope of development of health, medicine and welfare policy.</p> <p>CVA 保健医療ソーシャルワークのシームレス化に向けたシステム構築の構成要素—保健医療・福祉政策の展開を射程において—</p>			
論 文 審 査 員	主査	新潟医療福祉大学	教授	横 山 豊 治
	副査	新潟医療福祉大学	教授	豊 田 保
	副査	新潟医療福祉大学	教授	片 平 洸 彦
	副査	新潟医療福祉大学	教授	小 林 量 作

論 文 内 容 の 要 旨

2000年以降の保健医療・福祉政策の変革により医療機関の機能分化が生じた。その結果、身体的治療のシームレス化に向けた地域医療機関間の連携が図られ、そこでの MSW の機能・役割について確認され、活動の成果を上げている。しかし一方で、介護保険の導入や医療機関の機能分化は、保健医療ソーシャルワークプロセスの中断化・分断化をもたらした。それは、CVA 患者を対象とした保健医療ソーシャルワークの使命である「地域社会での CVA 患者の生存・生活権保障の理念にもとづいた生活の確保を目指した援助」を困難ならしめている。この現状を打破し、身体的治療を中心とした医療のシームレス化にとどまらず、全人的医療のシームレス化を目指すため、保健医療ソーシャルワークプロセスのシームレス化の確保をめざすことが急がれる。本論では、研究方法として、インタビュー調査を CVA 地域連携クリティカパスを実施している 3 箇所の医療機関の MSW 3 名と CVA 患者の医療を中心としているが、CVA 地域連携クリティカルパスの実施は行っていない 1 医療機関 MSW 2 名を対象に実施し、質的統合法により結果の分析を行い、保健医療ソーシャルワークのシームレス化の実現に向けて以下 8 点が必要であると示し、CVA 保健医療ソーシャルワークプロセスのシームレス化に資する構成要素について「連携システムのあり方」と「CVA 保健医療ソーシャルワークパスツール（試案）」を提示した。

- ① 各保健・医療・福祉機関にソーシャルワークの専門性を身につけた MSW の配属
- ② 各保健・医療・福祉機関内外に、MSW が CVA 患者の地域医療連携チームの重要な一員であることとコーディネーターとしての役割の周知
- ③ 地域のソーシャルワーカーが協働して作成した地域連携ソーシャルワークパス様式の活用（様式についての試案を示した。）
- ④ パス様式だけでなく、顔の見える関係作りをする中での情報交換、共有の必要性

- ⑤ MSW, ソーシャルワーカー間での連携・協働のスキル, 援助の引継ぎ期間の必要性
- ⑥ スーパービジョン (個別, グループ) の実施
- ⑦ パス機関の選別の視点
- ⑧ 地域におけるソーシャルワーカー間の共有点
 - * ソーシャルワークの専門性, 価値, 倫理
 - * 地域, 地域住民, 地域住民の生活ニーズの共通理解
 - * ソーシャルワーカー間の信頼関係の基づく良好な関係性
 - * カンファレンス (個別, 定期的) の実施
 - * 担当者会議の実施
 - * ソーシャルワーカー間での学習会, 勉強会
 - * ソーシャルワーカーの中でのリーダー

なお、本論文は以下の学術雑誌に掲載済みである。

Toyoko Yasui:

Components for working toward seamless medical social work for patients with cerebrovascular accident: Scope of development of health, medicine and welfare policy.

Niigata Journal of Health and Welfare Vol.13 (1) 2013: 13-22.

論文審査結果の要旨

2000年以降のわが国の保健医療・福祉政策による医療機関の機能分化促進により、医療ソーシャルワークの側面からの患者支援プロセスが中断化・分断化をきたすようになったことについて、本論文提出者は問題意識を持ち続け、脳卒中後遺症患者（以下、CVA 患者）への医療ソーシャルワークの現状と課題に関する調査を2009年までに5次にわたって実施してきた。（聞き取り2回、聞き取り＋参与観察1回、アンケート2回）

そうした関連研究の成果は、2001年以降、6篇の論文で発表してきた。（そのうちの最新の1篇は学位論文審査の参考論文として提出）

長期的・継続的なソーシャルワークを必要とするケースが多いCVA患者への支援に焦点を絞って実施した量的な調査の結果、施設・機関間のシームレスな医療ソーシャルワークプロセスの展開を図るために専用のパス・ツールを新たに考案する必要性が明らかになったことを受け、そのモデル案づくりを帰納法的に進めるために質的調査によって取り組んだのが、本論文でまとめた研究である。

急性期・回復期リハビリテーション機能を有する国内4病院の医療ソーシャルワーカー5名（全員：社会福祉士有資格者）を対象に、①「CVA 地域医療連携クリティカルパスの現状と課題」、②「保健医療ソーシャルワークプロセスのシームレス化に向けたパスシートに記載すべき項目」、③「保健医療ソーシャルワークパスの実現に向けた地域連携システム構築の必要条件」について、丹念なインタビュー調査を行い、得られたデータを質的統合法により分析した。

その結果、CVA患者の医療に携わっている地域、医療機関の間で地域連携クリティカルパスの導入が必ずしも浸透していないこと、現在活用されているCVA地域連携クリティカルパス様式についても、保健医療ソーシャルワークプロセスのシームレス化には不十分であること、医療機関の機能分化後、各機関にCVA患者の生存・生活権保障を担う視点を共有できるソーシャルワーカーが必ずしも配置されているとは限らないという現場の課題が確認された。

また、保健医療ソーシャルワークのシームレス化実現に向けてのシステム構築に求められる7点の構成要素が明らかとなり、さらにその7点を推進するうえでソーシャルワーカー間で共有すべき事項を抽出することができた。そして、具体的にシームレスな地域連携を進めるためのソーシャルワークパスツールのモデル案を、実用性を考慮した簡便な様式で作成することができた。

CVA患者を対象としたクリティカルパスに関しては、国内で複数の開発例が既に報告されていることから、審査会においては、それらの先行研究との関係などについて問われたが、それらが患者の心身機能面を中心とした医療面の情報伝達が主となっているのに対し、本研究では、ソーシャルワーカー間での共有・活用を主目的とし、心理社会的側面に重点を置いたパス・ツールの作成を目指したところに独自性と社会的意義があるとの説明により、審査員の理解が得られた。

審査の過程では、インタビュー調査の件数に関する質問も挙がったが、質的統合法（山浦晴男、2012）では、個別分析から総合分析へと展開できた段階で分析作業を収束できるとされていることから、この件数のデータからも領域限定的な理論化は可能と説明された。

質的調査によって生成されたパスツールのモデル案が、実際の患者支援の現場でどの程度の妥当性、有効性を持つかについては、臨床家の協力による試用を経ての実証的な研究によって検証される必要があり、本研究の成果に基づいた今後の研究の継続、発展への期待が各審査員から寄せられた。

参考論文にも代表される10数年来の関連研究を基盤としたうえでの開発的な本研究の到達点には、独創性と社会的意義があり、博士学位論文に値するものと認められた。